

塩崎厚生労働大臣スピーチ（仮訳）

日米韓保健大臣会合
バイデン副大統領がん撲滅ムーンショットイニシアチブ

2016年9月19日
ロッセニューヨークパレスホテル

日本では、現在約三人に一人ががんで亡くなっている。しかし、これは単なる統計上の数字ではない。その背景には多くの人々の、患者自身だけではなく、愛する人を失う家族や友人の数え切れない痛みや苦しみがある。我々は、苦しみと生きていきたいという切なる願いからなる、声なき声に耳を傾け、がんを克服するという不屈の闘志と決意を奮い起こさなければならない。

会場の皆様、

我々三か国には、がんに関する状況について、共通した特徴を多く有しているが、いくつか違いがある。

肺がんは、三か国において、最も多いがんの死因である一方、米国では乳がんが占める割合が比較的高く、日本と韓国では胃がんと肝がんの占める割合が比較的高い。

米国には、ヘルスケア領域の研究開発における革新的な能力とベンチャー企業の独創的な活動によって、最新の独創的ながん治療が多く開発されてきたことがよく知られている。

韓国は、コンピュータネットワークによる広域接続と分析が可能な単一の医療保険・支払審査システムを有し、がんの全数を把握することが可能である。

我々は、提供レベルに大きな格差のない、良好な医療アクセスを確保し、早期でのがんの発見を可能としている。内視鏡検診も強みであり、特に胃がんの早期発見に貢献している。我々はまた、免疫チェックポイント阻害剤という最近の例に導出された、基礎的ながん研究における多くのシーズを有している。

したがって、私は、多くの共通点を持った三か国が協働してイニシアチブをとることが、それぞれの強みを活かし、がんの歴史の中で初めて、最大の英知の結集につながると強く信じている。

会場の皆様

私が敬意を表している、バイデン副大統領のがん撲滅ムーンショットイニシアチブは、がんとの戦いに不可欠な局面に光を当てるものである。

日本のがん対策には 3 つの柱がある。がんの予防、研究と治療の開発推進、がんとともに暮らせる社会の構築である。しかしながら、人々の本当の願いは治療である。我々は、支払可能なコストで利用できる革新的診断法と治療法を開発しなければならない。また、我々は、治療の選択肢が非常に限られた小児がんや希少がんの対策を優先しなければならない。これらの目的を達成するために、医師、研究者、サバイバーを含めた患者と協働する必要がある。我々のすべてにとっての共通の挑戦である。

プレジジョンメディシンと免疫療法は、従来の治療法より副作用が少なく有効な治療成果をもたらす。これらの発展には、医学、バイオサイエンス、物理学、放射線医学、コンピュータサイエンスの最良の研究者が協働することが必要である。日本の研究施設の多くは、研究施設とアカデミア、産業の連携を強化する取組を始めており、これは我々としても強力に支援しているところである。適切な治療を適切な患者に適切な時期に行うためには、適切に分析されて統合されたプロテオゲノミクスデータと臨床情報を増やしていく必要がある。この努力は、人工知能の十分な活用や国境を越えたデータシェアリングによって大幅に加速されるものである。政府としても、日本医療研究開発機構（AMED）と国立がん研究センター（NCC）と協働してこの戦略を大きく進めていきたい。

会場の皆様、

我々、日本政府はがん撲滅ムーンショットイニシアチブを強く支持する。そして、米国、韓国、日本が、がんとの戦いに対して共通したビジョンの下、強力なパートナーシップを結んでいくものと強く確信している。

がん患者に与えられた時間は限られている。日本は、猶予はないという考えを共に持ち、米国と韓国と手を携え、がんを克服するための取組を加速させていくことを強く決意している。